

2026(令和8)年 7月 7日

報道関係者 各位

松山大学  
(全 2枚送信)**世界的な国際法史研究者・ベッチ教授(ウィーン大学)が来学  
2026年度 松山大学法学部学術研究会・講演会 開催**

7月14日(火) 16時から研究会、18時から講演会を同日開催

松山大学法学部では、2026年7月14日(火曜日)に、国際法史の世界的研究者であるミロシュ・ベッチ教授(ウィーン大学法学部ヨーロッパ法史・憲法史講座)をお招きし、学術研究会および学術講演会を開催いたします。

ウクライナ戦争やガザ侵攻など、戦後の国際法秩序を揺るがす激動の世界情勢を踏まえ、過去の国際秩序の大転換期にどのように秩序が再構築されてきたか、また最新の国際法史研究の成果について解説していただきます。本学の学生や教職員をはじめ、広く一般市民の皆様にもご参加いただける貴重な機会となります。ぜひ、ご取材ください。

**実施概要****【学術研究会】**

日時: 2026年7月14日(火曜日) 16時00分~17時30分  
会場: 松山大学東本館7階会議室2(松山市文京町4-2)  
演題: 「ヴェルサイユ条約から広域圏秩序(Großraumordnung)まで  
~ドイツと日本の比較におけるナチの国際法思想(1920-1950)」  
講師: ミロシュ・ベッチ 氏(ウィーン大学法学部教授)  
参加者: 学生、教職員、一般市民(入場無料・参加自由)

**【学術講演会】**

日時: 2026年7月14日(火曜日) 18時00分~19時30分  
場所: 松山大学8号館821番教室(松山市文京町4-2)  
演題: 「ナチ独裁後の歴史叙述  
~5人のドイツ法学者がどのように国際法史を叙述したか(1945-2000)」  
講師: ミロシュ・ベッチ 氏(ウィーン大学法学部教授)  
参加者: 学生、教職員、一般市民(入場無料・参加自由)

**講師プロフィール****ミロシュ・ベッチ(Miloš Vec)氏**

ウィーン大学法学部教授(専攻: 国際法史・ドイツ公法史)。1966年ドイツ・フランクフルト生まれ。フランクフルト大学、マックス・プランク研究所等で法学を専攻し、2012年よりウィーン大学教授を務める。著書に『Wolfgang Preiser (1903-1997) und sein „Institut für Geschichte des Völkerrechts“ an der Universität Frankfurt. Denkräume und Sozialwelten eines Völkerrechtshistorikers im 20. Jahrhundert. Nomos Verlag, Baden-Baden 2025』など多数。



【このリリースについてのお問い合わせ】

松山大学教務課 法学部担当 電話: 089-926-7137 (直通)



## <会場>

※お車でお越しの場合は事前にお申し出ください。

